

令和6年7月13日(土)～9月8日(日)

企画展「絵葉書で旅する近代久留米」

近代の日本で、観光地や記念行事の写真入り絵葉書が、明治時代後半から昭和戦前にかけて大量に作られ、せんてん みやげひん 宣伝や土産品として使用されました。本展では久留米市がしよぞう 所蔵する絵葉書の中から、約100年前の久留米の観光名所や町並みを印刷した絵葉書と、街の移り変わりを紹介しました。



展示会概要

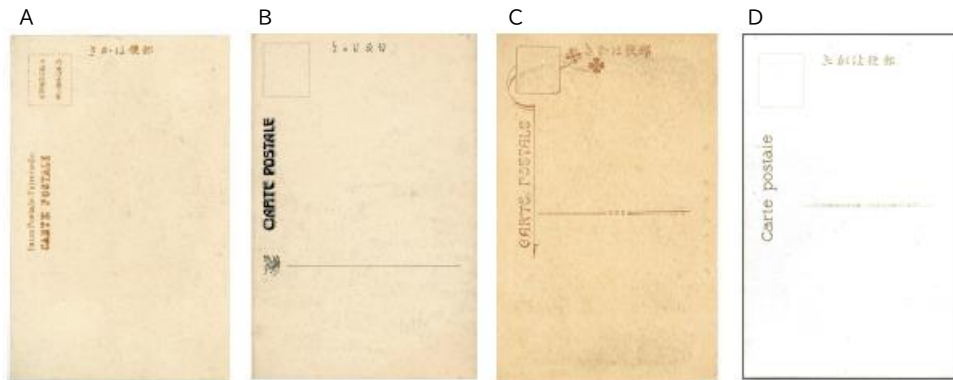
はじめに ～日本の絵葉書のはじまり～

日本では、明治4年(1871)に東京・大阪間で郵便事業が始まり、同6年(1873)に官製の「郵便はがき」が発行されました。同33年(1900)に私製葉書が認められ、絵葉書が発行されるようになります。この頃、西洋では印刷技術の向上に伴い、絵葉書が大量に生産され、大ブームとなっていました。

同37年(1904)に日露戦争が始まると、軍事郵便に絵葉書が多く使用されました。戦勝記念の絵葉書が爆発的に売れ、日本にも絵葉書ブームが巻き起こります。印刷各社は新しい技術や流行のデザインを取り入れ、競って絵葉書きそ を発行しました。更に郵便制度の浸透しんとう もあいまって、絵葉書は都市部だけでなく地方にも広がっていきました。

宛名面のうつつりかわり

絵葉書の多くは発行年が記されていませんが、宛名面にある情報で、発行時期がある程度、推定できます。

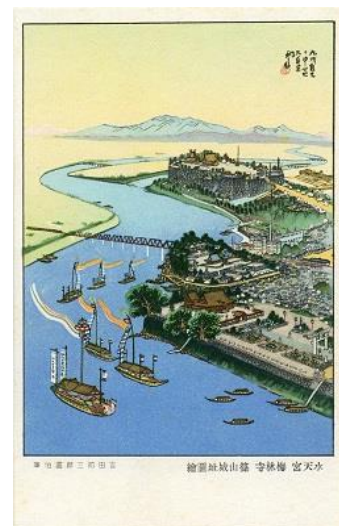


画像左から A.通信欄なし:明治40年(1907)3月31日以前の発行 B.通信欄の罫線が3分の1:明治40年(1907)3月28日以降の発行 C.通信欄の罫線が2分の1:大正7年(1918)4月1日以降の発行 D.「はかき」表示が「はがき」に:昭和8年(1933)2月15日以降の発行 / (画像なし)「郵便はがき」表記が右読みから左読みに:昭和22年(1947)以降の発行
<以下、各絵葉書に、宛名面から推測される発行時期を併記しています。>

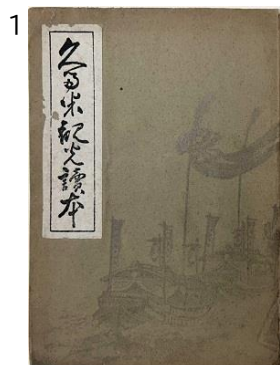
第1章 観光名所をめぐる

観光とは、他の国や地方の風景、史跡、風物などを見物することです。この言葉が、現在の意味で一般に使用されるのは、大正時代に入ってからです。それ以前は「漫遊」や「物見遊山」といいました。

明治時代後半に、日本が近代社会として成熟し、交通網など社会基盤が充実していくと、経済振興のための取り組みのひとつとして、国内外からの旅客の誘致が活発になります。明治22年(1889)に、日本一小さな市として誕生した久留米市でも、軍隊の誘致、地場産業の育成などによって経済振興に取り組んできました。その結果、軍関係施設をはじめとした市内の名所・旧跡をめぐる観光客が増え、それらを観光スポットとして紹介した観光地図や絵葉書などがつくられるようになりました。



『水天宮 梅林寺 篠山城址圖絵』画:吉田初三郎 発行:D.昭和8年(1933)2月15日以降



1.『久留米観光読本』発行:久留米観光協会 昭和13年(1938)11月20日

同書は冒頭で、市が軍都や産業都市であることを誇り、高良山と筑後川を擁する「地の利」を説いています。また、当時人気があった「吉田初三郎式」鳥瞰図が収録され、人目をひきました。他にも、旅館組合や交通業者と協力してリーフレットを作成し、誘客を図りました。



2.『^{こくへいたいしやこうらじんじやぜんけい}国幣大社高良神社全景』(高良大社) 画:吉田初三郎 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

創建は1600年以上前とされ、筑後国一の宮として古くから崇拜を集めています。明治から終戦までの社格制度で「高良神社」^{こくへいちゆうしや}は国幣中社、その後国幣大社に列せられました。戦後、制度廃止により「高良大社」となります。社殿(1661年完成)は、3代久留米藩主・有馬頼利が寄進したもので、ふもとの一の鳥居と同じく、国の重要文化財に指定されています。

3.『^{さいしんばん だいにしゅう くる めいしよえはがき がいほう}最新版(第二集)久留米名所絵葉書』(外包) 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

久留米市日吉町に所在した^{ささやま}田村額縁店より発行の「久留米名所絵葉書」(第二集)では、高良神社や^{ささやま}篠山神社、梅林寺、^{そりはし}水天宮境内の反橋などの神社仏閣が紹介されています。



4.『^{ちくごこくへいたいしやこうらじんじやいちのとりい}筑後国幣大社高良神社一ノ鳥居』(高良大社) 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

高良山は、古代以来、信仰の中心として、また軍事上の^{ようしやう}要衝として、歴史的に重要な役割をはたしてきました。特に近代以降は、参拝に観光を兼ねて、高良山を訪れる人々が増えていきました。観光名所・高良山として、古代の^{こうごいし}神籠石、中世の^{やましろ}山城、高良神社などを紹介した名所絵葉書が発行されました。

5.『^{けんしやささやまじんじやけいだいこっさけいほう}県社篠山神社境内国旗掲揚』(久留米城址) 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

天正15年(1587)に毛利秀包が入城、後に柳川城主田中吉政の支城となります。元和7年(1621)には有馬豊氏が入城し、大名有馬家がおよそ250年間にわたり久留米藩を治めました。明治4年(1871)の廃城後は本丸跡の石垣や内堀などが残ります。城跡に鎮座する篠山神社は、明治12年(1879)に旧久留米藩士の有志により創建され、今でも多くの参拝者が訪れています。

6.『^{くる めいしよ すすいてんぐうけいだいちやうぼうだい}(久留米名勝)水天宮境内眺望台』(水天宮) 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

久留米水天宮は全国水天宮の総本宮です。壇ノ浦の戦い後、^{あぜちのつぼね い せ ちとせがわ}按察使局伊勢が千歳川(現 筑後川)のほとりて安徳天皇と平家一門の菩提を^{ぼだい とむら}弔ったことが始まりとされています。当初は^{あまご ぜ}尼御前神社と呼ばれ、現在の場所に移ったのは慶安3年(1650)のことです。水と子どもを守護し、水難除けや安産祈願で有名です。



7.『^{ちくごめいしやう だいにしゅう ばいりんじ くる めし}筑後名勝(第二集)梅林寺(久留米市)』(梅林寺) 発行:A.明治40年(1907)3月31日以前

元和7年(1621)、有馬豊氏が丹波国福知山(現 京都府福知山市)から久留米藩初代藩主として^{にゆうほう}入封するのに伴い、福知山の瑞巖寺を移しました。梅林寺の寺号は、豊氏の父則頼の法名「梅林院殿」に由来します。久留米藩主初代・2代・7代・10代を埋葬し、他の歴代藩主を^{くよう ぼだいじ}供養する大名有馬家の菩提寺です。

8.『^{くる めいしやう みやのじんばし}(久留米名勝)宮ノ陣橋』(筑後川) 発行:B.明治40年(1907)3月28日以降

筑紫次郎の異称を持つ筑後川は九州最大の河川で、別名^{ちとせがわ}千歳川とも呼ばれ、^{いかだ}筏や渡船、帆船、蒸気船などが航行する水上交通の大動脈でした。また、この大河を渡るため、主に渡し舟を利用していましたが、明治23年(1890)竣工の千歳川鉄橋(鹿児島本線鉄橋)を皮切りに、兩岸を結ぶ橋が次々と架けられ、物と人の交流が容易になりました。

9.『^{ごんげんづかそとほり}権現塚外堤』(御塚・権現塚) 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

御塚・^{ごんげんづか}権現塚古墳は大善寺町宮本に所在する古墳です。御塚古墳は、5世紀後半に築造された帆立貝の形に似た^{ほたてがひ}前方

えんぶん 三重のほり 権現塚古墳は、6世紀前半に築造された大型のえんぶん 円墳です。絵葉書には、大正6年(1917)復元工事完了後の様子が映し出されています。

第2章 町並みをたどる

明治以降、政治や教育制度の変革をはじめ、産業の近代化、交通手段の発達、そして建築や服装など生活スタイルが洋式化し、町並みが大きく変化していきました。久留米の市街地でも、江戸時代に建てられた家屋や店舗が並ぶ通りには、少しずつ洋風の建物が増え、道路が造成されるなど、町の姿は変化しました。絵葉書には、近代化と共に変わっていく町の様子が残されています。

また、現在の町の景観は、その当時から一層、変化しましたが、よく観察すると、今も同じ姿のもの、同じ場所にあるもの、移動されたもの、当時を偲ばせるものが残っています。

10



11



12



10.『久留米名勝新停車場』(JR久留米駅) 発行:B.明治40年(1907)3月28日以降

明治22年(1889)、九州鉄道(現 JR九州)が九州初の鉄道(博多~久留米間)を開通しました。ただし、洪水で筑後川への架橋が遅れたため、開通時には北岸に仮停車場が設けられ、久留米駅が開業したのは翌23年のことです。

11.『久留米市庁舎』 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

明治4年(1871)、廃藩置県により久留米県が成立、同年11月には三潞県となり、県庁は久留米藩御使者屋におかれました。その後、福岡県久留米支庁などを経て、明治21年(1888)の市制施行に伴い、翌年、初代の久留米市庁舎が同地に建てられました。

12.『道路擴張工事竣工前ノ久留米市本町二丁目より一丁目ヲ』(国道264号) 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

交通網の発達により、人やモノが行き交うようになると、市街地を中心に道路整備が進められました。昭和7年(1932)4月に芋抜川町から町名変更した本町は、元々交通量が多く、道路拡幅後、次々に舗装されていきました。

13



14



15



13.『(行在所)福岡県立中学明善校』 発行:B.明治40年(1907)3月28日以降

明治44年(1911)、久留米市及びその近郊で陸軍大演習が実施されました。大演習は天皇が直接指揮するもので、第十八師団の戦力を確認する目的で、久留米が実施地として選ばれたと考えられます。大本営が福岡県立中学明善校(現 県立明善高等学校)に置かれ、明治天皇が滞在される(現 明善高校百年記念館)が設けられました。

14.『第十八師団司令部 久留米行在所 第十二師団司令部』 発行:B.明治40年(1907)3月28日以降

大正14年(1925)の軍備整理により、第十八師団を含む4個師団の廃止などが行われました。陸軍が撤退すれば、久留米市とその周辺地域にとって大打撃となるため、官民挙げての存続運動がおこりました。その結果、第十八師団に代わり、第十二師団司令部が小倉から久留米第十八師団司令部跡に移転されました。

15.『水天宮七百年祭記念勸業共進会記念絵葉書』 発行:B.明治40年(1907)3月28日以降

大正3年(1914)、水天宮七百年祭記念勸業共進会が開催されました。水天宮七百年記念を冠に、商業都市久留米を象徴する大博覧会で、入場者数が30万人(当時の久留米市人口の7倍)にもものぼるにぎわいをみせました。



16.『久留米商業学校創立廿年記念』(市立久留米商業高等学校) 発行:B.明治40年(1907)3月28日以降

久留米商業高等学校は、明治29年(1896)に福岡県内で最初の商業学校として、荘島町内に開設されました。同校創立20周年を記念して、卒業生の寄付により記念館を建設した旨を伝えています。また、先に紹介した「水天宮七百年祭記念勸業共進会」は本校卒業生が中心となり開催されました。

17.『(久留米名勝)九州医学専門学校』(久留米大学本館) 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

九州医学専門学校(以下、医専)は、現在の久留米大学の前身です。福岡県内の医師養成のため医専誘致に成功した久留米市の補助と、日本足袋株式会社(現 アサヒシューズ株式会社)の石橋徳次郎・正二郎からの敷地や校舎の寄付により、昭和3年(1928)4月に開校しました。校舎屋上に腰かけた2人の姿が目をつまみます。

18.『日本足袋株式会社久留米本社工場』(アサヒシューズ株式会社) 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

明治25年(1892)、石橋徳次郎により仕立物業「志まや」が創業されました。明治40年(1907)、足袋事業に^{たび}転換。大正5年(1916)、久留米市洗町に新工場を建設しました。大正7年(1919)に「日本足袋株式会社」と改称し、2代目石橋徳次郎が社長、その弟の正二郎が専務取締役に就任しました。



19.『旭屋全景』 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

昭和12年(1937)9月30日に、近代的商業都市久留米を目指してデパート旭屋が創業しました。地元資本による久留米初のデパートは、たちまち筑後一円の名所となりました。昭和37年(1962)には井筒屋との提携により久留米井筒屋となりました。この地には、現在「久留米シティプラザ」が建設され、市民の憩いの場、文化芸術の発信の場として親しまれています。

20.『住友銀行久留米支店』(三井住友銀行久留米支店) 発行:C.大正7年(1918)4月1日以降

個人金融業者が多かった久留米に、大正元年(1912)10月4日、住友銀行久留米支店(通町一丁目)が進出しました。同行は、翌年1月には、片原町旧六十一銀行跡(現 中央町)に移転し、その後、久留米銀行を買収し、昭和5年(1930)5月に日吉町一丁目に新築移転しました。戦後の道路拡張で減築されましたが、現在も、三井住友銀行として同じビルで営業が続いています。

21.『洗ってよくなる 本場久留米緋』 発行:B.明治40年(1907)3月28日以降

久留米緋は、旧藩領内で生産されている先染めの綿織物です。江戸時代後期に、久留米城下町に住む井上伝(1788~1869)という少女が創始して以来、多数の関係者の技術開発や創意工夫によって久留米の一大産業となりました。





【動画】 展示した絵葉書から9点、各地点の現在の写真とともに紹介しています。

[公式 YouTube 企画展「絵葉書で旅する近代久留米」](#)



令和6年度久留米市立六ツ門図書館展示コーナー企画展

絵葉書で旅する 近代久留米

令和6年
7月13日(土) ～ 9月8日(日)

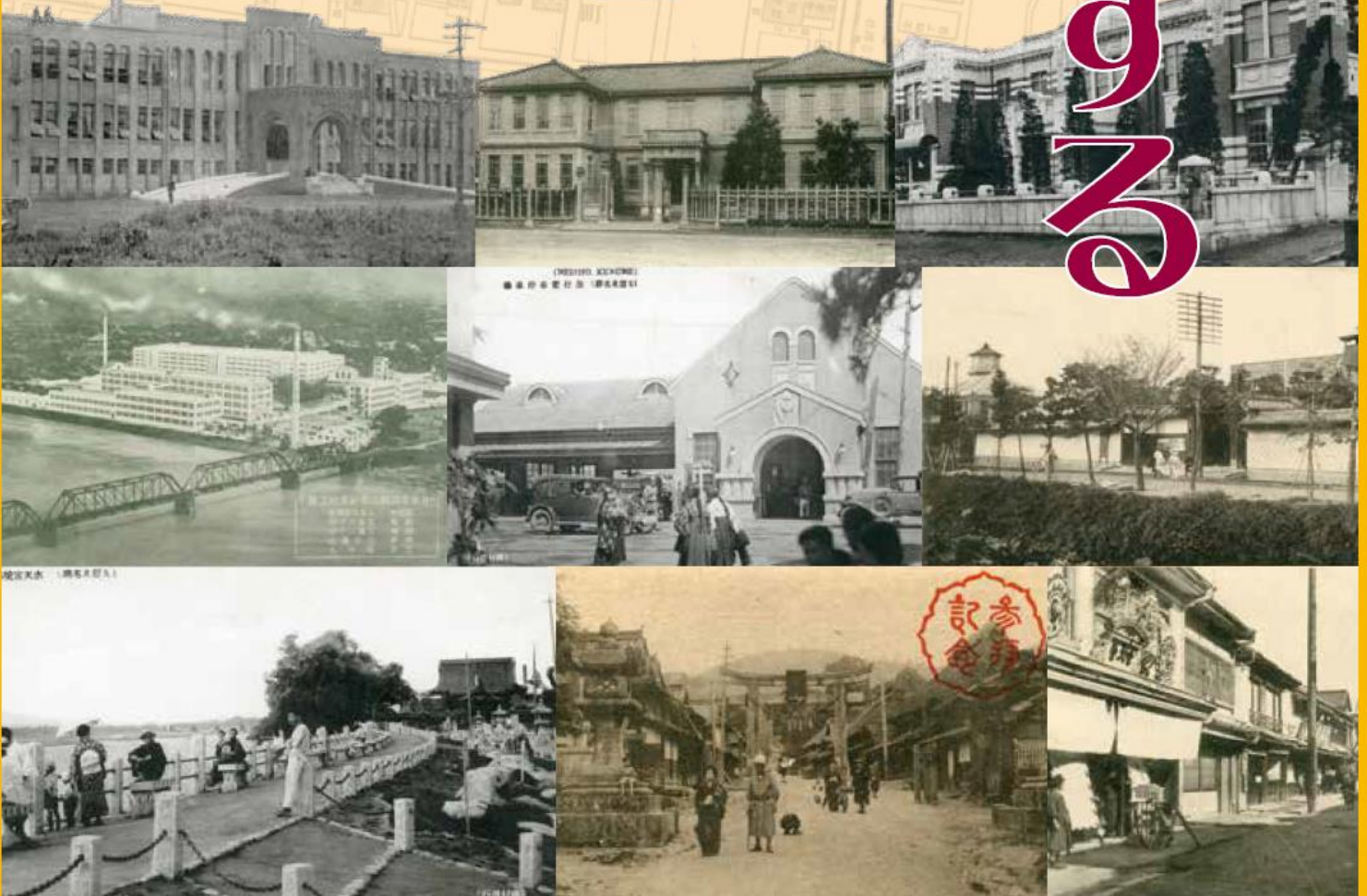
開館時間 午前10時～午後6時

休館日 毎週水曜日、第4木曜日

主催 久留米市、久留米市教育委員会

100年くらい前の
久留米に出かける気分です♪

入場無料



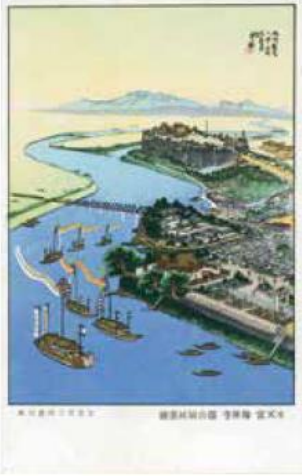
上段左から：(久留米名勝)九州医学専門学校/久留米家政女学校/ (久留米名勝)久留米商工会議所/日本足袋株式会社本社工場/ (久留米名勝)急行電車停車場/久留米市役所/ (久留米名勝)水天宮境内眺望台/筑後国幣大社高良神社一ノ鳥居/久留米市米屋町

絵葉書で旅する 近代久留米

令和6年

7月13日(土)～9月8日(日)

観光名所をめぐる



左/水天宮梅林寺篠山城址図絵 中上/水天宮御社殿全景 中下/篠山神社・将軍梅
右上/筑後史料(第一集)将軍梅(三井郡) 右下/(久留米名勝)宮ノ陣橋

町並みをたどる



左/絵葉書「洗ってよくなる本場久留米餅」
中/化粧品売場(一階)(旭屋デパート)
右上/久留米高等女学校
右中/久留米城址篠山神社
右下/(行在所)福岡県立中学明善校

近代の日本では、明治時代後半から昭和戦前にかけて、観光地や記念行事の写真入り絵葉書が大量に作られ、宣伝や土産品として使用されました。
本展では、近代久留米の観光名所や町並みを印刷した絵葉書約250点を公開します。あわせて、今昔を比較できる現在の写真も展示し、時代の変化を紹介します。

同時開催
7/13～9/29
久留米市立六ツ門図書館展示コーナー
パネル展示
8・11 久留米空襲の記憶を未来に語りつなぐ



来場記念に 自由研究に

会場に展示している近代絵葉書はすべて撮影OKです。
撮影した画像は、いろいろな楽しみ方ができます。
・画像を拡大して、絵葉書の細部をじっくり観察してみる
・絵葉書の場所を探してみる
・今の風景とくらべてみる

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

〒830-0031福岡県久留米市六ツ門町3-11
TEL.0942-27-9281 FAX.0942-27-7281

入場無料

- JR久留米駅から徒歩約15分 ● 西鉄久留米駅から徒歩約10分
- バス停「六ツ門・シティプラザ前」から徒歩約2分
- くるめりあ六ツ門地下駐車場・トラストパーク六ツ門駐車場にご駐車の場合、「くるめりあ六ツ門」利用サービスとして2時間無料になります。展示コーナーのカウンターで、お持ちいただいた駐車券に利用証明スタンプを押印いたします。その後、1階インフォメーションカウンターにて割引処理をご依頼ください。



音声コード
Uni-Voiceコード対応の携帯電話やスマートフォンで展示会についてご案内

